

# 尾瀬ネットワーク通信

2007年11月20日 VOL10. 4(33) NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

## 新しい酒は新しい革袋に

～再燃した携帯基地局設置問題～

理事長・高橋 喬

### 民主党参院環境部会で説明

去る8月30日、尾瀬は従来の日光国立公園から分離独立して、わが国で29番目の国立公園となった。この10年間で年間60万人を超えた入山者数が半減した地元にとって、ようやく手に入れた目玉となる看板である。これを金科玉条として、地元が尾瀬の自然保護に前向きに取り組むことを期待したが、これはたちまち裏切られてしまった。独立を見越して早くもその1週間前に片品村の山小屋組合と地元の関係者らによる尾瀬保護協会なる団体が、片品村と同村村議会に尾瀬の特別保護地区内へのNTTドコモ携帯電話基地局（アンテナ）の設置を推進する陳情書を提出した。

これに対して同村と村議会は、設置は必要との認識を示し、9月14日にはこの陳情を採択した。

また、片品村に対応して、桧枝岐村と同村村議会も足並みをそろえて基地局の設置推進を決めた。

ネットワーク（以下NW）も含めた尾瀬関連自然保護4団体で構成する尾瀬を守る会（中根一郎会長）は、これに対して群馬県知事、片品村村長、尾瀬保護協会に「計画の白紙撤回」を申し入れた。

回答はいずれも予想していた内容で、「遭難防止を目的とする」というものだった。

マスメディアもこの問題に大きな関心を寄せ、地元紙がコメントを求めてきたのを皮切りに、TBSテレビが11月1日に高橋、永島、椎名にインタビュー。同11日に「噂の！東京マガジ

ン」で放映した。またテレビ朝日も高橋、椎名、日本自然保護協会の辻村氏の3人にインタビュー。同20日の「スーパーモーニング」で放映した。これに先立つ10月17日には高橋、椎名と尾瀬を守る会の鈴木、日吉の両氏（いずれも山林保護全国ネットワーク）の4名が、参議院議員会館に大石正光議員（民主党環境部会）を訪問、この問題に対する協力を要請した。同議員から高橋の名義で同部会への陳情書を提出するようアドバイスされ、10月22日に陳情書を提出した。

波乱含みの国会を反映してか、これに対するヒヤリングはようやく12月5日に開催され、説明者として高橋が出席した（別項参照）。

#### なぜ絶対反対なのか

われわれが携帯基地局の設置に反対する理由の第一は、尾瀬のほぼ全域が特別保護地区であるからだ。尾瀬は昭和28年に国立公園でも最も規制の網が厳しい（あるいは厳しいはずである）特別保護地区に指定され、今日に至っている。

特別保護地区とはなにかを一言（ひとこと）で表現すると「人為的行為は一切許されない聖域」とでも言ったらよいかと思う。つまりこのエリア内では極端に言うと枯葉1枚持ち帰ってはいけないし、石ころ1つ蹴飛ばしても違反になるわけで、花や昆虫の採集も当然禁止である。

したがって、尾瀬の木道はもとより、山小屋が特別保護地区内に存在しているのも、本来なら法律違反である。昭和30年以前には、尾瀬

には7軒の山小屋しかなかった。現在は16軒を数えるまでに増えた。昭和28年に特別保護地区に指定されたのに、それ以降に9軒も増えたということは、どこに責任があるのだろうか。

そのような特別保護地区内に少なからぬ面積の穴を掘り、コンクリートで基礎を固め、その上に高い鉄塔のアンテナを建てるという発想自体、とうてい容認されるものではない。

尾瀬の最大の特徴である本州最大の高層湿原が形成されるまでに5000~6000年の年月を要している。しかし、破壊するのは簡単で、建設機械が一步踏み込んだら、永遠に元に戻ることはない。これまでに破壊されてしまった尾瀬の自然が、これを物語っている。

尾瀬保護協会は、われわれへの回答の中で、静寂な尾瀬の環境の中での携帯の乱用を防止するための手段として、入山口でのマナーモード化や、木道上での通話禁止など利用上のルール化を図るとしているが、これは実現不可能と思われる。まず、現在ですら入山口でのハイカーへの入山指導はまったく行われていない。入山届はおろか、いつどのような個人またはグループが尾瀬ヶ原や尾瀬沼に向かったかさえ、把握していない。いわばフリーパスである。

こうした野放し状態のため、短パンにスニーカー姿もあれば、スカートにハイヒールという格好で尾瀬に入ってくる観光客が少なくない。当然、地図など持っていないから、自分が、今、どこにいるかも知らないわけで、こういう人たちに携帯を使うなどといっても、まず無理だと思う、

緊急用の携帯うんぬんよりも、まず入山口での指導とチェックを十分に行うことのほうが、遭難対策として緊急に必要なではと考える。

尾瀬の問題が次々と発生する背景として、管理体制の一元化がなされていないことが挙げられると思う。たとえば、国では道路は国土交通省、文化財は文部科学省、尾瀬の管理は環境省、尾瀬に関係する群馬、福島、新潟の3県、土地の約7割を所有する東京電力など管理も対策もバラバラで、足並みが揃わない。

国立公園なのだから、環境省が中心になるべきなのだが、どうも環境省は尾瀬では環境省ではないように思う。

「新しい酒は新しい革袋に入れよ」(新約聖書・マタイ伝)という言葉がある。新しい内容を古い形式で表現すると、内容も形式もともに生きないという意に用いるが、せっかく新しい

革袋(独立国立公園)を手に入れたのに、古い酒(相変わらずの自然破壊)を続けてはいけなと思う。

## 民主党参院環境部会

### 「国立公園特別保護地区のあり方」

12月5日のヒヤリングは、尾瀬国立公園の発足により自然の保全が一層強化されることになったが、実態はどうか。特に携帯基地局の設置による自然破壊の実態を認識し、問題の解決に向けての方策はどうあるべきなのか、関係者の意見を聞くために開かれた。

ヒヤリングでは、まず江戸川大学の吉田正人教授が「国立公園のあり方および世界の潮流」について説明。ついでWWFジャパンの草刈秀紀氏が「他の国立公園等における電波問題」について報告。高橋が「特別保護地区としての尾瀬国立公園における電波、通信施設等に関する問題」について意見を述べた。しんがり環境省国立公園課長の「国立公園と世界自然遺産」だったが、特別保護地区についての説明の中で「この地区内での利用については、地域等と十分に協議したうえで...」といった趣旨の発言をしたのに大石議員が立腹。「生態系を嚴重に保護するたまたの特別保護地区では、利用ではなく保護を協議するべきで、あなたの発言は矛盾している」と声を荒げる一幕もあった。

## 第2回入山指導実施報告...群馬側

- 1 日時 9月1日(土)曇 08:00~12:00
- 2 場所 山ノ鼻~下田代十字路~竜宮小屋  
~温泉小屋
- 3 内容
  - 1) 8月30日尾瀬国立公園誕生による3県のサミットが開かれたこともあったか?前回の6月に比べ、ゴミの量は非常に少なかった(レジ袋1/3)。主なものとしては、スイガラ、菓子の包み、靴ひも、歯ブラシ、乾電池、パンフレット等。
  - 2) 入山者は牛首付近に15~6名、竜宮、温泉小屋に5~6名がいた。牛首ではリーフレットを配り、自然保護の協力を求めた。
  - 3) 竜宮小屋は1階部分を全面改修工事がなされていた。
  - 4) 鳩待峠~山ノ鼻(川上橋まで)は、1250mにわたり今年(平成19年)木道が新調された(尾瀬林業戸倉支社の談)。そのほかベンチも新しくなった所もあった。
  - 5) 今回、往路は下田代十字路~温泉小屋

から段吉新道、兎田代を経て渋沢温泉小屋に泊まる奥只見ルートで、ブナやトチの大木が多い樹林道を下った。

- 6) 咲いていた主な花は、イワショウブ、ウメバチソウ、キンコウカ、サワギキョウ等

#### 4 参加者

伊藤アケミ・加藤憲司・坂本敏子・鎮目安康・島田富夫・清水博之・長島睦世・西山伸一・前田佳胤・深山美子 計10名

(群馬側担当理事 清水 博之)



9/2・小沢平にて 群馬側入山指導参加者

## 本年度現地活動無事終了...福島側 2.150人に自然解説

平成19年度福島側入山指導(バス添乗解説)等が無事終了しました。

5月の1回目より10月の最終回まで全5回平成19年度活動を無事終了することが出来、現地活動にご参加頂いた指導員の皆さんに厚く御礼申し上げます。

1回目の出足は好調でしたが2回目、3回目の中だるみに、一時はこの先どうなることかとの思いもありましたが、手当たり次第の電話作戦が功を奏し4回目9人、5回目11人と盛り返し、終盤はかつてない二桁の参加者で大盛況裡に終了いたしました。

今年度は新人指導員の積極的な参加活動で現地の雰囲気も明るく、楽しみながらのバス添乗解説、また合間をみての現地観察会などが参加者からも好評を得ました。

参加者自身も楽しみながら入山指導が出来るような企画を今後も検討して行きます。

今年度の皆勤賞は円谷光行さんで全5回すべてに参加、初谷博さん4回、3回が坂本敏子、佐藤信良、小林ミヨの皆さんと磯部義孝の4人、2回が6人、1回が4人と合わせて17人の指導員の参加協力がありました。延べ参加人数では70人でした。

バス添乗解説では延べ71台、最高は9月、

10月の各18台で、かつてない数字です。この終盤2回の添乗解説が、会津バスとの絆をさらに強くすることと思います。71台のバス、1台の乗客平均が30人として2,130人の入山者に、尾瀬の大切さを訴える自然解説が出来たこととなります。参加指導員の皆様に感謝申し上げます。

早くも尾瀬は60cmの積雪。11月初旬に初雪があり11月21日から22日にかけて、桧枝岐村では55cmの積雪、尾瀬沼付近では60cm以上の積雪があります。年内の雪は根雪にならないといいますが、今回の雪は来春まで残りそうです。

来年5月に寝坊の雪をみんなで起こしに行きましょう。

(福島側担当理事 磯部義孝)

## 平成19年度第2回 尾瀬ヶ原野生シカ調査報告

- 日時 8月31日(金)夜半  
月令・18.2 月の出・19:38
- 参加者 池田稔夫・伊東アケミ・加藤憲司・坂本敏子・鎮目安康・島田富夫・清水博之・永島 勲・長島睦世・西山伸一・前田佳胤・深山美子  
(以上12名)
- 確認頭数 45頭
- 調査状況
  - 使用器具 ライトセンサス用器具一式(ビームライト...スポット/フラッド)・GPS・ナイトスコープ・方位磁石(シルバコンパス)距離計 他
  - コース 山ノ鼻~竜宮 (片道4.03km)
  - 所要時間 4時間20分  
20:00山ノ鼻(尾瀬口ロッジ)出発 0:20 帰着
  - 天候 曇天から晴へ変る
  - 経過  
出発時、空全体に雲がかかっていたが、時間の経過と共に晴れ間が広がり、やがて明るい月も顔を出した。今回の確認は南縁のみで、源五郎堀、セン沢周辺が多かった。45頭という数は昨年と同時期に比べて圧倒的に多く、シカの動きは活発のようだ。
- 特記  
この時期は、週末毎に三団体(環境省パークレンジャー、尾瀬高校、当ネットワーク)のどこかが調査を行っており、実施日の調整が難しい。今回、金曜日の晩となったことについて、参加頂いた方々にはご迷惑をお掛けしました。今までを振り返れば回を重ねる度に調査力は

上がっている。しかし、発見から記録への流れについては、より正確な調査結果を得るため、また安全面からも実施の都度、参加者全員で確認を行う必要がある。

今後も励行していきたい。

(シカ調査担当理事 坂本 敏子)

## 平成 18 年度指導員養成講座

東京の室内研修及び天候に恵まれた現地研修とも当初予定のカリキュラムはすべて終了し、5名の「尾瀬自然保護指導員」が誕生いたしました。

### 1. 実施日

室内研修：7月21日(土) 13:00~17:00

会場：東京駅八重洲中央口「ジャングルム」

会議室

現地研修：8月24日(金)~26日(日)

場所：アヤメ平、尾瀬ヶ原、戸倉

宿舎：富士見峠「富士見小屋」、戸倉「一仙」

受講生：

川 一男(品川区)・小林ミヨ(郡山市)・藤田隆美(郡山市)・平池信次(大田区)・向井京子(前橋市)

講師：

永島 勲・前田佳胤・椎名宏子・高橋 喬

(指導員養成担当理事 永島 勲)

## 尾瀬を知りたい

### 尾瀬自然保護指導員養成講座を受講して

受講生 向井京子

「尾瀬自然保護ネットワーク」まずこの名前に惹かれた。私は群馬県に生まれ群馬県で育ち、現在も生活している。尾瀬について、群馬県民は何を知っているだろうか。恐らく、一度訪ね感動した人は尾瀬に関心を持ち多くを知りたいと考えるだろう。しかし、現実に尾瀬の自然を守りたいと活動している人は少なく、どのような問題があるのかを知っている人でさえ多いとは言えない。僅か2年前に私がそうであったように。

私が山に興味を持ったのは富士山であった。しかし、はじめて山に登り、登山が好きになったのは、雨の日の至仏山へ登った時である。雨だから、景色が良かった訳でもないし何故なのかわからない。以来尾瀬をもっと知りたいと考えるようになった。明らかに富士山よりも尾瀬の方が近いのに、尾瀬に足が向かないのは何故だろう。群馬県民として育つ環境の中で、知らないうちに、尾瀬は観光客による自然破壊が進んでいるのだから環境保護のためには尾瀬に入らない方が良いという考えが、潜在意識とし

て植付けられているのではないかとさえ思ってしまう。一度興味を抱くといろいろと知りたくなり、知るならば正確な知識が欲しい、そう考え講座へ参加させていただいた。

室内研修では、講師の方々や受講生の方々の知識や尾瀬との関わりが、私と比べようもない深いものであると感じたと同時に、尾瀬の自然や保護活動、尾瀬で起きている問題に驚いてしまった。

講師の方の説明は、とても興味深く多岐にわたり、全てを記憶に留めることは困難であったが、これから何度も尾瀬に足を運び知識をつけて、皆さんと活動していきたいと強く思わせるものであった。また、修了式での理事長さんのお話は、これから活動していくに当たり、とても気が引き締まるものであり、同時に自然保護活動を続けていく必要性を感じた。

この4日間の講座を通し、私は、尾瀬についてたくさんのことを見て、感じて、知ることができた。しかし、確かに「基礎の基礎」を学んだに過ぎない。これから、自己学習や保護活動に参加し経験を重ね、尾瀬をもっと知り、守っていきたいと考える。

最後に、この講座にご尽力下さった皆様方へ「ありがとうございました。」

## バス添乗解説研修の開催

さる11月の理事会において提案、採択されました「バス添乗解説研修」は、冬期間の研修活動の場として、来年1月と2月下旬頃に東京ジャングルムを会場に開催を計画しております。

研修の開催趣旨は、毎年尾瀬ネットワーク活動事業の基軸としているバス添乗解説を、さらに充実向上を図ると共に、一人でも多くの指導員の方々を育成し、活動に参加して頂くために行うものです。

なお、開催日時や具体的研修プログラムについては決まり次第、後日通知等でお知らせ致します。

(尾瀬自然保護指導員 円谷 光行)

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-203(株)SEC 内

電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

[http://www.geocities.jp/oze\\_net/](http://www.geocities.jp/oze_net/)

理事長 高橋 喬

事務局長 椎名 宏子

編集担当 島上 健

HP 担当 東雲 明

